

一般飲食店における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	1	0 ～ 1	自動車で弁当の配送先から事業場へ帰る途中、道路脇の電柱に衝突した。	231	17	10 ～ 29
1999	5	22 ～ 23	勤務終了後マイカーで帰宅途中、道路脇の桜の木に激突し、さらに法面に乗り上げて横転した。	231	3	10 ～ 29
1999	2	22 ～ 23	支店より本店へ食材を取りに来る途中事故で車輛から出火し焼死した。	231	17	30 ～ 49
1999	6	11 ～ 12	地下にある飲食店に朝からの大雨で雨水等が次第にビルの地下に流れ込み、やがて地下全体が水没したため、逃げ遅れて溺死した。	713	10	1～ 9
1999	7	12 ～ 13	食堂の閉店直前に、モップを持って屋根の上に登ったときに、誤って4cm下の地上に転落した。	415	1	10 ～ 29
1999	12	0 ～ 1	50ccバイクで寿司を配達した帰り道、点滅信号のある見通しの悪い交差点で出会い頭に乗用車(1300cc)と衝突した。	231	17	1～ 9
		17	調理場において調理長の指示の下で料理していたところ、調理長が「手際			1～

1999	8	～ 18	が悪い」などと叱責し、刺し身包丁で胸を刺してきた。	921	90	9
1999	11	～ 12	弁当をワンボックスで配達中、点滅の交差点で左側から赤点滅なのに停止せずに直進してきた普通乗用車と側面衝突し、車外に投げ出された。	231	17	10 ～ 29
1999	12	～ 9	飲食店店員がごみ捨てを終え店に戻るため、徒歩で渋滞で停車していた車と車の間から反対側へ渡ろうとしたところ、センターラインよりの車線を走行していた乗用車にはねられた。	231	17	10 ～ 29
2000	2	～ 4	飲食店の最後の客を接待していた店員を会社の乗用車で自宅に送り届け会社に帰る途中、大型貨物車と衝突した。	221	17	50 ～ 99
2001	1	～ 17	厨房の天井から突き出している出窓の清掃作業中に、はしご(約4m)から足を踏み外して転落し、床・テーブルなどに頭、胸、腰などを強打した。	371	1	1～ 9
2001	1	～ 23	業務命令で地区の講習会へ参加するため乗用車で走行中、対向の乗用車とセンターライン付近で正面衝突した。	231	17	30 ～ 49
2001	6	～ 11	ごみ処理施設にごみを捨ててに行った際、構内で作業をしていたショベルローダーにひかれた。	141	6	1～ 9
2001	7	～ 8	ハンバーガー包み紙が不足したためスクーターで借りに行く途中、交差点で右方向から走行してきた軽貨物自動車に衝突した。	231	17	50 ～ 99
2001	7	～ 19	駐車場からミニバイクで配達に出ようとして、走行中の市バスに衝突した。	231	17	1～ 9
		8	食堂で仕込み作業終了後に朝食を買ってくるよう社長に言われたので、自			1～

2001	10	9	～	転車で弁当を買いに行った帰り道、右折禁止を無視して右折してきた普通乗用車にはねられた。	231	17	9
2001	12	11	～	食堂の屋根上のエアコン室外機等の掃除を行っていて、高さ約3メートル40cmメートルの屋根端部から、食堂すぐ横にある無料休憩所のテント屋根を突き破って休憩所のコンクリート地上に墜落した。	415	1	10 ～ 29
2002	1	19	～	翌日のパンの仕入れのため乗用車で行き、その帰り道に片側一車線の見通しの良い直線道路で道路右側の道路標識の支柱に激突した。	231	17	1～ 9
2002	4	0	～	圧力釜（小型圧力容器、内容積0.21ℓ、最高使用圧力0.09Mp）でラーメンのスープをつくるための煮込みを行っていて、圧力釜の本体と蓋の間から水分が漏れていることに気付き、火を止めて蓋に付いている蒸気の逃がし弁を開け、しばらくしてから蓋の留具のボルトを緩めたところ、蓋と本体の隙間から蒸気が吹き出し顔などに蒸気を浴びた。	319	11	10 ～ 29
2002	1	14	～	パート労働者の勤務終了後に店長が乗用車で送っていく途中、国道上でスピードを出しすぎてセンターラインをはみ出し対向のダンプトラックと衝突した。	231	17	10 ～ 29
2002	10	6	～	デパートのの社員食堂の調理人が、タイムカードを打刻するため地下1階の指定場所へ向かっていたときに、階段の手すりの隙間から転落した。	413	1	100 ～ 299
2002	10	1	～	お好み焼き屋の店長が売上金を3軒隣にある系列のパチンコ屋に届けた後、厨房の清掃をしていたときに瞬間湯沸器から出た一酸化炭素を吸って死亡した。	514	12	1～ 9
2003	2	0	～	お届け料理の準備のため午前6時頃に出社し、正午頃に仕事を終えて事務所の椅子に座って休憩していたときに突然胸痛を訴え、救急車で病院へ搬送される途中に死亡した。（4ヵ月前頃から業務量が増加し始め、死亡前か月間における時間外労働時間数は111時間であった。）	921	90	1～ 9
		0		製麺機で麺を作る作業が終了し、次の製麺のため攪拌（かくはん）部の清			1～

2003	3	～	掃等を行いクラッチを操作して製麺機を動かしたときに、両腕が攪拌（かくはん）部の攪拌（かくはん）軸に触れ両腕を巻き込まれた。	165	7	9
2003	5	19 ～ 20	学生寮の調理場で配膳作業中に、「てんかん」を起して倒れ、タイル張りの床に頭をぶつけた。	416	2	1～ 9
2003	12	9 ～ 10	バイクで食材買出しのため走行中、ワゴン車と衝突した。	221	17	1～ 9
2004	3	0 ～ 1	食材の配送中、食材を下ろすため車を停車させ後部にまわったところ、後方より走行してきた自動車に追突された。	231	17	1～ 9
2005	12	14 ～ 15	原動機付き自転車（バイク）で市道を走行中、車道と歩道との段差側面に原動機付き自転車のステップが接触し、その反動で原動機付き自転車が歩道側に転倒し、歩道内の街路樹に激突した。	231	17	10 ～ 29
2005	6	17 ～ 18	2階の窓拭きをベランダ（幅62cm）で行っていたところ、5m下に墜落した。	418	1	1～ 9
2005	6	18 ～ 19	厨房内で、アルコール消毒液をスプレー式容器に詰替えていたところライターの火が引火し、驚いた作業者がアルコール消毒液を手放し、飛び散った炎で傍にいた被災者が火傷を負った。	512	16	30 ～ 49
2005	5	20 ～ 21	原動機付き自転車（バイク）を運転し配達中、交差点を右折したところ軽貨物自動車と衝突した。	231	17	30 ～ 49
2006	6	5 ～ 6	被災者が軽ワゴン車を運転して、仕入れに行く途中、センターラインを越えて東進していたところ、反対車線を西進してきたトラックと正面衝突した。	231	17	10 ～ 29
		19	うどん店舗隣の麺小屋において、一人でうどん生地の製造を行っていた。			30

2006	9	～	被災者が掃除道具を取りにこないで、他の労働者が麺小屋の様子を見に行くと、麺練機に巻き込まれた被災者を発見した。	162	7	～	49
2006	7	19 ～ 20	翌日朝になっても勤務先から被災者が家に戻らないので、家族が電話をしたがつながらないため、勤務先に行ってみると被災者が倒れていた。	391	12	1～	9
2006	10	11 ～ 12	被災者は乗用車を運転し配送先から事業場へ戻る途中、交差点に西から東方向に進入したが、その際、国道線を南から北方向に走行してきた乗用車と衝突した。	231	17	1～	9
2006	6	13 ～ 14	客先へ注文の品を出前に行く為、オートバイで走行中、対向してきたトラックと衝突し、体を強打した。	231	17	1～	9
2006	11	18 ～ 19	出前の配達のため、車両を運転し国道を走行中に、運転操作を誤って中央分離帯を乗り越えて対向車線にはみ出し、対向してきた車両と衝突した。	231	17	1～	9
2006	11	13 ～ 14	原付バイクで、商品を配達する途中、交差点を右折しようとした時、直進してきた車と衝突し、はね飛ばされた。	231	17	30 ～	49
2007	8	2 ～ 3	ラーメン店の厨房内において、ラーメンに入れる具材を切ったり、おつまみにする揚げ物等を作る作業を行っていたところ、足元がふらふらする体調不良の状態に陥り、屋外へ通じている通路でしゃがんで休んでいたが、更に体調不良の症状が悪化し、約25時間後に死亡した。	715	11	1～	9
2007	10	12 ～ 13	業務終了後、被災者は帰宅するため地下1階にある店舗出入り口から階段を上って1階外に出ようとした際、階段下から2、3段目より足を踏み外して仰向けに倒れた。	413	1	10 ～	29
2007	8	23 ～	被災者は、店内に設置されているベーカリーオーブン（200V）内部の照明用に取り付けられている電球交換作業を行うために、オーブンの電源を切り配電盤の扉を開け、3箇所ある電球交換作業を行っていたところ、	341	13	30 ～	

		24	配線と配線の接点を止めてあるビスに額と左手が触れ、感電した。ベーカリーオープンの電源は切っていたが、ブレーカーは落としていなかった。			49
2007	4	16 ～ 17	被災者は出勤後、仕事着（白衣）に着替えるために店舗の裏側（東口側）にある通用口から2階にある更衣室に行くために階段を上り、2階の踊り場の1段下で上履きに履き替えようとして靴を脱ぎ、自分の脱いだ靴を整えようとして、約3.2m下の1階の土間へ転落した。	413	1	1～ 9
2007	8	12 ～ 13	自動二輪で商品を搬送中、転倒し、ガードレールに激突した。	231	17	1～ 9
2007	2	18 ～ 19	店舗の厨房において、食品のたれを仕込み中、突然倒れた。病院に搬送後、死亡した。発症前6ヶ月において時間外労働が月平均80時間を超えていた。	921	90	1～ 9
2008	9	8 ～ 9	食材の納入に来た業者が、店内厨房の床に前かがみに座り込んだ状態の被災者を発見した。被災者は、前日営業終了後、厨房の業務用ガスコンロ（LPガス）に寸胴なべを載せ、ひとりで翌日の営業で使用するラーメンスープの調理を行っていた。発見時、店はほぼ締め切りで厨房の排気ファンは停止していて、コンロは全開で点火状態であった。	391	12	1～ 9
2008	4	20 ～ 21	被災者は、ホテル内レストランにおける調理業務の終了後、帰宅するために厨房から出てホテル建物の外廊下を歩行していた際、吹き込んでいた雨で濡れていたコンクリートの通路上で転倒し、死亡した。	417	2	10 ～ 29
2008	10	8 ～ 9	同僚が当該店舗に出勤したところ、清掃作業を行うため、既に出勤していた被災者が階段の踊り場で倒れているところを発見した。	413	2	10 ～ 29
2008	6	12 ～ 13	被災者は、店舗所有のミニバイク（90cc）で出前の配達を終えて店舗に戻る途中、駐車場に右折で入ろうと停止していたトラックの後ろで減速したところ、後方から来た乗用車に追突されたため、道路上にはね飛ばされて死亡した。	231	17	1～ 9

2008	5	8 ～ 9	ラーメン店に隣接した製麺場の工場長として製造・配達等の作業に従事していた被災者が、工場内で気を失い倒れているところを出入り業者に発見されたが死亡した。	921	90	1～ 9
2008	10	19 ～ 20	道路をはさんで向かいにある店の加工場へ向かうために横断歩道を渡ろうとしていたところ、左からきた原付バイクと衝突して道路上で転倒、さらに原付バイクの後を走っていた軽自動車にひかれた。	231	17	10 ～ 29
2009	2	6 ～ 7	他の店舗に出張し業務を行い、直接帰宅途中に自宅近くのバス停留所にてバスと接触した。	231	17	1～ 9
2009	5	5 ～ 6	嘔気を訴え、店内で休養していた被災者に同僚が声をかけたところ、応答がなかったため救急車にて病院に搬送されたが死亡した。発症前1か月間の時間外労働時間数は、108時間20分であった。	921	90	10 ～ 29
2009	1	14 ～ 15	中華料理店の厨房において、換気扇の掃除をしようとした高さ72cmのガス台に左足をかけたところ、転落し身体をガス台にぶつけ、そのまま仰向けにコンクリートの床上に倒れた。被災者は午後5時ころ帰宅。翌朝自宅で具合が悪くなり、救急車で搬送されたが、同日死亡した。	391	1	1～ 9
2009	3	3 ～ 4	長期間にわたる著しい疲労の蓄積をもたらす過重な長時間労働により死亡した。	921	90	10 ～ 29
2009	11	18 ～ 19	スーパーマーケット店内のテナント店で、休みなしの勤務状況が続く中、食品衛生検査が抜き打ちで行われた際、検査中に倒れて死亡した。	921	90	1～ 9
2010	4	8 ～ 9	自宅において、母親が起きてくるのが遅いため見に行ったところ、寝室ですでに死亡していた。長時間労働による過労死。	921	90	10 ～ 29
		22	被災者（店長）は、バイクで配達に行く途中、信号なしのT字路でウインカーを出して、右折するために停車していたところ、後方から自動車の前			30

2010	6	～	方不注意により追突され、反対車線に飛び出した。そのとき、反対車線を	231	17	～
	23		走行していた自動車に接触し、転倒したものの。被災者は、首の骨折と内臓			49
			の負傷により、翌日に死亡したものの。			
2011	4	～	被災者は飲食店の材料買い出しのため、近隣のスーパーに向かうため、横	231	17	～
	23		断歩道の無い市道を横断しようとしたところ、右側から来た乗用車にはね			29
			られ、病院に搬送されたが、約8時間後に死亡が確認されたもの。			
2011	8	～	作業場所において具合が悪くなり病院に搬送されたが、急性虚血性心不全	921	90	
	12		により死亡したものの。発症前6か月における1か月あたりの平均時間外労			
			働時間は約90時間であった。			
2011	10	～	被災者は店舗営業終了後、食材の調達及び業務報告を行うため、自身の所	231	17	～
	3		有するバイク（125cc）で本店へ向かった。本店から店舗へ帰る途			29
			中、東方向へ走行していた被災者に、南方向から進入してきたタクシーと			
			交差点で衝突したものの。当該交差点は、タクシー側に一時停止の義務が			
			あった。			
2011	3	～	被災者は事業場の接客カウンター内で閉店業務のため、店舗売上端末に向	921	90	～
	22		かっていたところ突然の体調不良があった。異常に気付いた労働者が見に			49
	23		行くと被災者は現場の床に倒れていた。救急車により病院に搬送される。			
			このとき心肺停止だったが、病院で一時心臓の鼓動が回復するも、再び心			
			肺停止となった。			
2011	3	～	施設内、休業中のレストランの改装作業において、壁に取り付けていたテ	371	1	～
	14		レビ（46型、38キログラム）を取り外すため脚立の天板に乗り作業し			50
	15		ていたところ脚立から転落したものの。災害発生の20日後に容態が急変し			99
			死亡した。			
2012	9	～	災害発生日直前の1か月の時間外労働は概ね100時間と、著しい疲労の蓄積	921	90	～
	12		をもたらず過重な業務に就労していた被災者は、通勤途中に駅の待合室で			29
			倒れた。。			
2012	8	～	被災者は階段のモップがけを行うため1階から2階に上がる時、3人がかり	413	1	～
	10					30



		11	で便器を下していた工事業者とすれちがう際に階段から転落した。			49
2012	7	16 ～ 17	被災者は厨房内で作業中にしゃがみこむ等、体調不良であったため事務所で休憩していたが、休憩中に意識を失い、救急搬送された病院で死亡した。なお、災害発生日の最高気温は34.7度であった（気象庁発表）。	715	11	10 ～ 29
2012	5	23 ～ 24	従業員が食器洗浄機を使用していた際、機械が突然停止し煙が出たため、電源を落とし作業を中断した。従業員は被災者（店長）に報告し、被災者は機械の扉を開け中を確認していた。その際、従業員は被災者に背を向け他の業務を行っていたが、しばらくして振り返ると、機械の中で感電し倒れている被災者を発見した。	359	13	10 ～ 29
2012	12	19 ～ 20	バイクで宅配の帰り、自動車と衝突し死亡した。	231	17	30 ～ 49
2012	3	13 ～ 14	雨の中、宅配用原付きにて配達のため片側2車線道路の緩やかな左カーブでバランスを崩し、対向車線に転倒した際に、（対向車線を）走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	10 ～ 29
2012	9	15 ～ 16	被災者は事業場内にて頭痛を訴え、意識不明の状態となり救急車にて搬送され、くも膜下出血により死亡した。	921	90	10 ～ 29
2013	5	18 ～ 19	飲食していた客が、仰向けに倒れている被災者を発見し、1階にいた事業主に知らせた。被災者は、救急搬送されたが、死亡した。	999	99	1～ 9
2013	12	14 ～ 15	被災者は、社有車で出前に行った帰り、交差点付近においてスリップし、路肩の電柱に激突した。その衝撃で胸部をエアバックに強打し、死亡した。	231	17	30 ～ 49
2014	10	10 ～ 11	食堂にて、仕込み中、出汁の入った寸胴を誤って倒し、熱湯を被り、全身炎症により死亡した。	519	11	1～ 9

2014	9	5 ～ 6	バイクで走行中、交差点で乗用車にひき逃げされ、死亡した。	231	17	1～ 9
2014	4	8 ～ 9	被災者は、胸が苦しいと言って倒れているところを発見され、救急搬送後、急性大動脈解離により死亡した。	921	90	10 ～ 29
2014	3	19 ～ 20	被災者は、アルバイト店員を注意した後、ホールへ戻ろうとして座り込み、その後、嘔吐し、意識を消失した。	921	90	10 ～ 29
2015	9	5 ～ 6	業務終了後の片づけ中に、後方から頭部を複数回殴打される。	999	99	10 ～ 29
2016	1	12 ～ 13	ドライブイン建物から生じた汚水を浄化槽へ流す配管の途中に設けられた会所桝において、配管中の詰まりを除去するため、労働者が会所桝のマンホール蓋を開けて、会所桝横の地上で腹這いになり、会所桝内に上半身を入れ、棹状の用具を用いて詰まった物を除去している途中溺死した。	418	10	10 ～ 29
2017	11	8 ～ 9	はしごに昇り、高さ約10mのけやきの剪定作業中に被災者が自分の剪定用具で右腕を負傷させてしまい、止血を行うためにはしごから地上へと降りようとしたところ、はしごから足を滑らせ、地上へと墜落し、死亡した。	371	1	10 ～ 29
2017	10	10 ～ 11	臨時的な食材の買い出しのため、被災者が自動二輪車で走行中、信号機のある片側2車線（南北方向については別途右折専用レーンがある）の交差点において、右折してきたトラックと衝突し、頭部を含めた身体全体を強く打ち、死亡した。	221	17	1～ 9
2017	9	14 ～ 15	ヘルプ勤務を終え、自家用車にて市場店への移動中、路上にて、スピードの出し過ぎ及び雨によるタイヤのスリップが原因でセンターラインをはみだしてしまい、対向車線を走行中の普通乗用車と正面衝突した。	231	17	10 ～ 29

2017	7	0 ～ 1	長時間労働及びオーナーの言動などで精神疾患を発症し、自殺した。	921	90	1～ 9
2017	4	10 ～ 11	被災者は、事業場敷地内の小屋から発生した不要物をトラック（積載荷重3.65t）に乗せ、約20m離れた同敷地内のゴミ堆積場所に移動し、廃棄する作業中、トラックの荷台上から重量約5kgの鉄製の板を投げ落とそうとしたところ、荷台のアオリを乗り越え、約1m下の地面に墜落した。被災者は保護帽未着用であった。	221	1	30 ～ 49
2017	3	22 ～ 23	飲食店の厨房で調理中に倒れ、顔面を負傷し鼻出血がある状況のところを発見された。救急搬送中に意識がなくなり、高血圧性心疾患により死亡した。	921	90	1～ 9
2017	2	8 ～ 9	本社の会議に出席するため、自動車で移動中、信号のない十字路にて、横から来た10tトラックと出会い頭にぶつかった。	231	17	1～ 9
2018	11	10 ～ 11	清掃や給仕の補助作業を行っていた被災者が、建物内階段の踊り場に倒れているところを発見されたもの。	413	1	10 ～ 29
2018	7	10 ～ 11	カレーをかき混ぜるための攪拌ヘラの柄（木製）が折れたため、被災者はこれを修理しようと、当該ヘラのヘラ部（金属製）から柄を手で引っぱって抜こうとしたが、抜けなかった。そこで、詰まっている柄をバーナーで加熱して炙ってから引き抜こうと当該ヘラ部をガス台の五徳の上に載せた。その数分後、ボン、という破裂音と共にヘラ部のヘラ側が被災者の頭部に向けて飛来し、頭部から顔面部にかけての部位に激突したものである。	364	4	10 ～ 29
2018	5	16 ～ 17	2階建ての飲食店で、地下の倉庫に行く階段から転落した音がしたため、確認したところ階段下に倒れているところを発見した。病院へ搬送したところ後日死亡した。	413	1	1～ 9
		18	他店舗に食材を取りに行くため、国道を被災者がバイクで北東方向に走行			10

2018	4	～	中、反対車線から右折してきたトラックの側面に被災者が衝突し、被災者がバイクから投げ出され、当該トラックの後続車に撥ねられた。	221	17	～
		19				29
2019	8	～	民家の敷地内において、労働者が仕出し配達業務中に、同社所有の小型貨物自動車の下に倒れている状態で発見され、2時間後、搬送先病院で死亡したもの。	221	7	1～
		10				9
2019	4	～	店舗のシンボルタワーを設置しようとして高さ12mの木製の支柱に3名が上がり、移動式クレーンで吊り上げられた木製のパネル（1枚150kg）を支柱に取り付ける作業中、一番上にいた被災者が地上に墜落したものの。	418	1	100～
		8				299
2020	12	～	被災者は出勤のために、店舗の従業員用駐車場にバックで停車しようとしていたところ、店舗通用口を突き破って店舗に激突。その後前進して、店舗の隣接する民家に激突し、外傷性ショックにより死亡したもの。	231	17	～
		8				29
2020	10	～	被災者は、勤務中に事業場内で胸の痛みを訴え倒れ込み、意識を失い、心停止の状態ですぐに医療機関に搬送されたもの。医療機関において「心筋梗塞」と診断され手術を受けるも、搬送先の病院で後日死亡したもの。	921	90	～
		8				29
2020	10	～	牽引車を使用してボートを湖から引き揚げる作業を行っていたところ、繊維ベルトが切断したため作業を中断した。その後、ボートが流され始めたため、被災者は、ボートまで泳ぎ、係留場所までボートを移動させ、係留用の杭にロープで固定しようとしたが、これに失敗し、再びモーターボートが沖に流された。被災者は同じことをもう一度繰り返したが係留に失敗し、ボートまで泳いでいた途中、溺れて死亡した。	713	10	1～
		14				9
		16				
2020	5	～	強盗に右前腕及び左頸部を刃物で切られ死亡したもの。	921	90	1～
		8				9
2020	1	～	被災者2名は、店舗内で死亡した状態で発見されたもの。発見当時、店舗内は閉め切られており、店舗内に設置された換気設備2台がいずれも稼働していない状態で、木炭を燃料とするタンドリイ窯を使用していた。死因	341	12	1～
		0				9
		2				

			は一酸化炭素中毒と考えられる。			
2020	1	0 ～ 2	被災者2名は、店舗内で死亡した状態で発見されたもの。発見当時、店舗内は閉め切られており、店舗内に設置された換気設備2台がいずれも稼働していない状態で、木炭を燃料とするタンドリー窯を使用していた。死因は一酸化炭素中毒と考えられる。	341	12	1～ 9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_03.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.html)に戻る。